

新子の頭にはつむじが二つあり、一つは頭のとっぺんについているが、もう一つはおでこの真上に乗っていた。おでこのつむじを家族の

みんなはマイマイとよんでいたが、むずかしいことを考えたり、気持ちが高ぶったりするとマイマイの毛が立ち上がった。

新子は、はね起きた。太陽を背にして黒い影かげが立っていた。頭がつるんと丸い。顔は見えなくても丸木シゲルだとわかった。

「ほらここ。ここだぞお」

シゲルの手から黒く長細いものがふわりととびかかつてきた。新子はキャアアと声をあげてとびのいた。とびのいてよく見れば、曲がったイチジクの枝だった。

また騙かまされた。新子はシゲルをにらみつける。いつもの白い体操服と短パンだ。新子と同じ年だが、新子は三年三組でシゲルは五組。シゲルと同じクラスでなくて良かった、といつも思っている。

「へビなんて、怖くないもん」

マイマイに手をやると、たしかに二ワトリのトサカのように立っていた。

新子はシゲルの顔めがけて土を投げつけた。土がシゲルの目に入った隙に立ちあがつて、スカートとパンツの土を手ではたき落とす。シゲルは目を押さえて痛そうだ。

とりあえず胸がスカツとしたが、こういうとき新子は、いつも言葉が胸の奥からせりあがつてきて、咽のところでつかえたりする。シゲルが声をあげて怒るか泣くかしたなら、新子の言葉もとび出してくれるのに、シゲルは黙っている。新子をいじ

めて大笑いすることはあつても、何かひどいことをされたときは、口をへの字に閉じて黙っている。だから新子も、自分の咽からどんな言葉がとび出してくるのか、知ることができないのだ。ごめんね、なのか、いい気味だ、なのか、それが一緒になつた言葉なのかもわからない。

「あつちの土手から見とつたら、新子が走つていつて急に消えた。人さらいかと思つて来てみたら死んどつた」

何の虫だろう。ミミズではない。 TENTOウ虫みたいに可愛くもない。 そうだ、カラカネハナカミキリだ。 庭のミズキの花を食

紙のようにやわらかく開いてふたを開く。この二つは國（こく）主（しゅ）^{つか}。カミキリの触角（しゅくかく）^{しゅく}は、新子のマイマイも負けるほ

「花を喰いに来るんじやが、頭がいいやつでな。めったなことでは掴まらん。カミエの角の……」

「……ふむ、お前さんはヘビのこえなど考えなかったが、ゆつくり歩いているとヘビが出てきそうだと怖い。」

畦道は一人しか歩けない幅で、ちよつと足が滑ると、さつきみたいに畑の中に転がつてしまう。ヘビが出てきたらどうしよう

③「シゲル、私の前を歩いてもいいよ。シゲルは男だから、前を歩かせてあげる」

シゲルは言われたとおり前を歩く。ヘビを踏んづけるのはシゲルだ。

「ナイショ。おじいちゃんとうちしか知らん場所」

川つぷちに着いた。

藤の蔓と葛の蔓が絡み合った緑色の壁が、川に沿って直角に曲がる角まで続いている。壁の高さも大人の背丈よりもっと高い。だから藤蔓のハンモックは誰にも見つからないのだ。

その入口のところまでシゲルがついてきた。右目に入った土は涙で流れたみたいだが、ごしごしするので白目が赤くなっている。

「川の水で、目を洗う？」

④ 新子は、怒った素振りのまま聞いた。最初にシゲルが、へびを投げつける真似をしたのだ。悪いのはシゲルだが、赤い目を見ていると心がとがめた。

うん、とシゲルが目の手をあてたまま頷いた。

新子はちよつと考えたが、自分がまいた種だ、と思った。⑤ 自分がまいた種から二ヨキニヨキ生え出した草は、自分で刈り取らなくてはならない。そういうふうには小太郎に言われていた。シゲルの目から、へんなものが生え出てこないように、川の水で洗わなくてはならない。シゲルの目が、小太郎のように義眼になるのも困る。

(中略)

新子は太い藤蔓に足をかけ、ハンモックによじのぼる。ゴザの真中に腰を下ろして膝を抱えこんだ。するとシゲルの顔が自分よりだいぶ下になった。シゲルはしかたなく、川の水で目を洗っている。

突然新子の顔に水がとんできた。シゲルが目を洗うふりで、水をかけたのだ。

「バカ、バカバカ、シゲルのバカ」

⑥ 新子は手で顔を覆うが、水は次々にとんでくる。髪も顔も洋服もびしょ濡れになった。マイマイからも水が落ちてきた。

「あんたなんか虫よ。カラカネハナカミキリよ」

水の鉄ぼうが止んだ。

「なんだあ？」

「だから、カミキリ。知らないの？ カミキリ虫」

「ダンゴ虫じゃないんだな」

「ダンゴ虫ってなによ」

「ダンゴ虫も知らんのか？ ベンジョの虫知らんのか？」

「うちのベンジョにはいないもん」

「おる。おるに決ってる。日本中のベンジョにダンゴ虫はおる。だから新子の家にもおる。平等だつて父ちゃんも言つてた」

「ダンゴ虫とカミキリ虫は違う。平等じゃあない。シゲルはバカだ。ダンゴ虫でカミキリ虫でバカだ」

新子は泣きそうになる。腹が立つて、腹が立つて、胸の中までグショグショになって、わあっと大声をあげたくなった。マイマイも、もう針になっている。シゲルに突進してマイマイで突き刺してやろうか。突き刺してやりたいけど、そのためにはハンモックからおりなくてはならない。おりようとすれば、下から水がとんでくるだろう。

⑦ 今はシゲルの方が強いのだ。ハンモックの上にいる自分より川つぶちに立つて見上げているシゲルの方が強いなんて、ものすごく変だ。絶対におかしい。叫び出したいほどくやし。ほつぺたがひくひくする。息も咽のあたりでひっかかって、しゃっくりみたいになってきた。こらえてもこらえても、息のたびに声がこぼれる。

「カミキリ虫なんだな。ほんとにカミキリ虫なんだな」

うん、と新子は頷いていた。

「だったらいい。ダンゴ虫でないんなら、いい。でも、新子の家のベンジョにも、ダンゴ虫は絶対にいるからな。ダンゴ虫は平等なんだからな。日本中、平等なんだぞ」

シゲルは姿を消した。

⑧ シゲルがいなくなったのをたしかめて、新子は思いきり泣いた。カミキリ虫ダンゴ虫シゲルのバカ。

問一 ― ①「マイマイに手をやると、たしかにニワトリのトサカのように立っていた」とありますが、このようすからわかる新子の気持ちを二十五〜三十字で答えなさい。

問二 ― ②「こういうとき新子は、いつも言葉が胸の奥からせりあがってきて、咽^{のど}のところであつつかえた気になる」とありますが、このときの新子のようすとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア シゲルにいじわるされたつらさや悲しさを口に出したいと思うが、シゲルがあまりにいたそうにしているために言えなくてくやしがつている。

イ 土が目に入ってしまったシゲルのことが心配で、自分のいたずらがきつかけで目が見えなくなったらどうしよう
と不安を感じている。

ウ シゲルはいじめられたときに新子ののように泣いたりさわいだりしないため、新子はシゲルに対して何と言ったらいいのかわからずとまどっている。

エ きつかけを作ったシゲルが悪いのだからお母さんに言いつけたいと思うが、家に帰ってどんなふうと言ったらいいのかうまくまとめられず困っている。

オ 本当はシゲルにあやまろうと思ったが、だまされた仕返しだと思うとすなおにあやまることができず、頭の中が混乱している。

問三 ― ③「シゲル、私の前を歩いてもいいよ」とありますが、新子がシゲルに前を歩かせたのはなぜですか。その理由を十五〜二十字で答えなさい。

問四 ― ④「新子は、怒った素振りのまま聞いた」とありますが、新子はどのような気持ちから怒った素振りをしたのですか。二十五〜三十字で答えなさい。

問五 ― ⑤「自分がまた種からニョキニョキ生え出した草は、自分で刈り取らなくてはならない」とありますが、自分のまた種とはどのようなことを指していますか。本文中から十五〜二十字で抜き出して答えなさい。

問六 ― ⑥「あんたなんか虫よ。カラカネハナカミキリよ」とありますが、シゲルのどのようなところに対してそう言ったのですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 新子がシゲルを本当は好きだという気持ちを知っているのに、わからないふりをして新子に好きだと言わせよう
としているところ。

イ 新子がシゲルの目を心配しているにもかかわらず、その気持ちを知ってわざといじわるやいたずらをしかけてく
るところ。

ウ いつも同じ洋服を着ていてミミズのように気持ち悪くみにくいわけではなく、かと言って TENTウ虫のようにか
わいいだけでもないところ。

エ 新子にへびを投げるまねをしたり水をかけたりしてちよっかいを出して腹立たしい一方で、すておけなくて一
目おいてしまうところ。

オ いじわるだから同じクラスにはいてほしくないけれど、何かしていると思わず注目してしまうほどシゲルのかし
こくてすてきなところ。

問七 ― ⑦「今はシゲルの方が強いのだ」とありますが、その理由を四十五〜五十五字で答えなさい。

問八 ― ⑧「シゲルがいなくなったのをたしかめて、新子は思いきり泣いた」とありますが、このときの新子の気持ちと
して最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア シゲルに弱いところを見せまいと思いがまんしていたが、無神経でおおざっぱなシゲルに対するいかりをこらえ
ることができなかった。

イ 自分の情けない部分を見せるともつとシゲルからいじめられると思いがまんしていたが、本当はシゲルのことが
こわくてしかたがなかった。

ウ シゲルに負けたくないと思って泣くのをこらえていたが、本当は自分よりシゲルの方が力も知恵もまっさっている

ことがわかってしまった。

エ 泣いていることをおじいちゃんに告げ口されると思い泣かないでいたが、あまりのくやしさに自分の感情をコントロールすることができなかった。

オ シゲルがダンゴ虫とカミキリ虫の見分けがつかないほどバカだったことに腹が立ったが、あまりにかわいそうで本人の前では言えなかった。

【二】 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

「がんばって意味はあるのか」と問うことは、がんばった結果をすぐ欲しがっている、ということになってしまった。^ほ

* このフリーズは、ほんとうは「一所懸命^{いっしょけんめい}がんばることに意味はあるんですか？」にしなければいけないんだ、と思うのです。

がんばることそれ自体に、意味があるのかどうかを考える、というふうに。

あなたからそう質問されたら、ぼくは「意味がある」と答えたい。

学校に通っているような子ども時代に、なにかに夢中になったり、歯をくいしばったり（いつもより血圧が上がる）なんていうのもいいよ、生活の中で、ふだんとは違う時間^{ちが}が流れる経験をするかどうか。

べつに、「そういう経験をしたら、これだけ得です」なんて言うつもりはない。そんな意味なんてないけど、人間^{ひと}としての足腰^{あしこし}が鍛^{きた}えられることだと思うの。

野球選手が腹筋をする。筋トレをする。^{*}「野球の上手、下手に筋トレなんて関係ないじゃん」と思うかもしれない。たしかに、直接の意味はない。だけど、筋トレをやって、スタミナを付けておくと、試合^{しあひ}の終盤^{しゅうばん}になってもバテないとか、夏場でもがんばれるといったような良いことだってあるんだ。

それと同じように、子ども時代に、がんばったり、なにかに夢中になったりする経験をしておかなくて成長してしまうと、けっこうモロいおとなになってしまう気がするのです。がんばらなきゃいけないときにがんばれなかったり、もつと怖い^{こわ}のが、がんばり方がわからない、どうがんばったらいいのかわからない、というふうになってしまう。そうすると、おとなになってからが、すごくキツイ人生になってしまうと思うんだな。

会社への就職のさいに、体育会系の運動部の学生や生徒が優遇^{*ゆうぐう}される話をよく聞きます。これは、上下関係や礼儀^{れいぎ}ができているとか、スタミナがあるから優遇されるのではないんだ。

まず、運動部だと、練習をする。練習というのは、目の前の試合^{*こうい}のためだけの行為^{こうい}ではなくて、「どうして自分はこんなに走

っているんだろう」ということを体ごとで考える、という経験なんだ。その経験のある人間を会社は使いたい、ということなんだよね。

*

もつと言ってしまうと、^⑤「負けを知る」ということがある。

学校生活では、どんなに試験前に徹夜で勉強しても成績が上がらなかったり、いっぱい練習しても部活で補欠になってしまったり、「がんばってもうまくいかない」ことは、たくさんあると思います。つらいことではあるけれども、このことは知っておいたほうがいい。がんばった経験がないままだと、「私は今回はがんばらなかったから、しかたがない」「ぼくががんばれば、こんなもん簡単だよ」ということを平気で信じる人間になってしまう。

いざ、おとなになってから初めて負けちゃうと、ショックが大きいんだ。

「残念だけど負けちゃった。でも、次はもつとがんばろう」と思えるような経験を、小学校、中学校、高校なんかのうちにしておこうよ。もちろん、がんばったことが報われる経験をする 것도、ものすごく大きいことだしね。

^④「所懸命がんばることに意味があつて、その「意味」には、これだけお金がもうけられるとか、こんなに得だというような説明は示せないけれども、必ずきみ、を人間として、じょうぶなひとにしてくれると思うんだ。

*

それから、もうひとつ。

これは^⑤に言いたいことだし、^⑥には謝らなくてはいけないことでもある。

まじめに悪いことをせず、勉強をする子どもがいる。はつきり言えば、「平凡な子ども」のことだ。平凡に生きている子どもを幸せにできないような社会や時代にしてしまったおとなというのは、やっぱりダメなんだ。

とりえはなんにもないけど、コツコツとまじめにがんばっている子どもが幸福になれないような社会なら、そんな社会にこそ^⑦がない、とぼくは思うのです。

「勝ち組」「負け組」とか、「実力性」とかいう言葉を耳にするよね。

勝ち組じゃないけどコツコツやってる人間に、居場所が与えられないような社会っていうのは情けない。昔は「平凡なサラリーマンで一生を終える」ということをバカにしたものだったけど、かつては平凡だった「定年まで職をまっとうする」ことのほうがたいへんで珍しくなっちゃった時代が、いまなんだ。

コツコツやってる子どもたちの居場所がちゃんとある。ぼくらは、そういう社会にしくちやならない。もちろん、おとなだって、居場所は欲しい。これはみんなで考えたいなって思うことなんだ。

(中略)

「がんばれ」という言葉は、いま、よくない言葉みたいに言われてしまうけれども、でも、ぼくは言いつづける。「がんばれ」って。

ただし、ゆつくりでいい。ゆつくりがんばれ。あせらなくていいんだ、ということなんだ。

ゆつくりがんばって、いまのうちにたくさん「^⑧」を知って、その悔しさと、そこから立ち直るきっかけのストックをたくさん持って……しぶとくてタフなおとなになってください。

(『みんなのなやみ』重松清)

*フリーズ……一続きの言葉。

*筋トレ……筋肉をきたえるためのトレーニング。

*スタミナ……つかれないで、元氣を持ち続けること。

*優遇……手あつくもてなすこと。

*行為……人間の行いやふるまい。

*ストック……たくわえてあるもの。

*タフ……がんばりようでねばり強いこと。

問一

①「人間としての足腰が鍛えられること」とありますが、子ども時代に適した「人間としての足腰を鍛える」方法を、本文中にある言葉を使って十五字以内で二つ答えなさい。

問二

②「体ごとで考える、という経験」とありますが、その例として**適当でないもの**を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 二年間続いている一万歩ウォーキング
- イ 毎日しているテニスコート整備
- ウ 自転車だけを利用しての日本列島縦断
- エ 道場でひたすらくり返す竹刀の素振りしなひ
- オ 一時間もかかってしまうバス通学

問三

③「『負けを知る』ということ」とありますが、負けを知っておいたほうがよい理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア がんばつてもうまくいかないことが、現実にはたくさんあることを信じられなくなってしまうから。
- イ 努力したのに失敗してしまった人の気持ちを思いやり、はげますことができるようになるから。
- ウ とても用心深くなり、自分が傷つくかもしれない恐れがあることへの挑戦をさけるようになるから。
- エ 失敗しても投げやりにならず、何回でも目標達成のために前向きに取り組めるようになるから。
- オ うまくいかなかったことを人のせいになくなり、誠実に最後までやりぬく責任感が身に付くから。

問四

④「一所懸命ががんばることに意味があつて」とありますが、一所懸命ががんばることの意味を説明したものとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 様々な上下関係や礼儀、がんばり方などがわかるようになり、心に余裕ゆゆうを持った落ち着いた社会人になることができる。

- イ がんばつて学力を高めておくと良い大学に合格でき、将来も約束されて、収入の多い幸福な人生を送れるようになる。

- ウ 特に運動をがんばり続けると、体力とスタミナが付いて元気になるので、死ぬまで健康的な人生を送れるようになる。

- エ がんばり続ければほとんどのことがむくわれるものであり、会社に就職してからも大切に扱われるようになる。

- オ つらく苦しいことは経験せざるをえないものであるが、それらを乗り越えるための精神的な強さが身に付くようになる。

問五

⑤、⑥に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ⑤子どもたち ⑥サラリーマン
- イ ⑤勝ち組 ⑥負け組
- ウ ⑤先生たち ⑥勉強家
- エ ⑤きみ ⑥おとな
- オ ⑤おとな ⑥子どもたち

問六

⑦に入る二字の熟語と、⑧に入る二字の言葉を、それぞれ本文中から抜き出して答えなさい。

問七

本文の内容に合うものとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア がんばることの無意味さを平気で信じている人は、今の社会の悪いところをよく理解しているものである。
- イ 体のじょうぶな人は、小学校・中学校・高校時代に、何事に対してもがんばつた経験をしているものである。
- ウ 小学生のころから、ゆつくりあせらずがんばつてしていると、がまん強いおとなにみんながなれるものである。
- エ 私たちの社会は、平凡だがまじめにがんばつている子どもたちを幸福にしなければならぬものである。
- オ がんばつた結果をすぐ欲しがるとは、すぐに損得ばかりを考えるおとなになつてしまうものである。

【三】 次の各問に答えなさい。

問一 ①～⑤と同じ組み立ての熟語をそれぞれ後から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| ① 問題 | ② 回転 | ③ 功罪 | ④ 短大 | ⑤ 人造 |
| ア 電化 | イ 日照 | ウ 採否 | エ 優良 | オ 断念 |
| | | | | カ 労災 |
| | | | | キ 背景 |

問二 次の□に適切な言葉を入れてことわざを完成させなさい。

- ① 氏より□
- ② 老いては□に従え
- ③ □心あれば水心あり
- ④ □は金
- ⑤ □も木から落ちる

【四】 次の①～⑩の□の漢字はひらがなに、カタカナは漢字になおしなさい。

- ① 昨日の三日月は美しかった。
- ② その広場は公の場所です。
- ③ 群れから外れたシマウマ。

- ④ もう一月も半ばを過ぎた。
- ⑤ こんなにたくさんは頂けません。
- ⑥ 古寺をタンボウする。
- ⑦ コウドウで卒業式を行う。
- ⑧ シュウイの目を気にする。
- ⑨ ルールにモトづいて行動する。
- ⑩ 病気をナオす。